

---

プロジェクト報告

---

## 気候エネルギー政策転換の日独米比較②

渡 邊 理 絵

---

### 1. はじめに

本研究の目的は、気候変動問題という人類共通の課題に直面して、なぜ各国で対策の進展に差が見られるのか、なぜある国は他の国に先駆けて（あるいは遅れて）革新的な政策措置を導入、実施するのか、その手段としてある国ではエネルギー転換が進み、他の国では進まないのか、という実証研究上の問いに、気候エネルギー政策形成過程に深く関与する利害関係者（アクター）の理念（belief）とガバナンス（特に連邦、州、EU など重層的ガバナンス）の相違に着目し、日独米を事例対象国として、答えることにあ

る。

本プロジェクトでは、2020年、2021年、2023年に実施した米国、日本、ドイツのアクターへのインタビュー、各国の気候エネルギー政策転換を理解するための背景、理論枠組みを説明する論稿の英文校正について、国際研究センタープロジェクトで支援をお願いした。

### 2. 成果

理論枠組みと背景部分は英文校正に出した。アクターへのインタビューは部分的に英文校正に出し、残りの部分の分析を終えて、再度英文校正に提出し、とりまとめて刊行する。